

水産資源管理談話会報

第40号

(財)日本鯨類研究所 資源管理研究センター

2007年 8月

翻訳・公表希望者は以下の手続きとり、著者の許可を得た上で
翻訳・公表する。

1. 翻訳・公表希望者は文章（FAX、手紙）で著者、表題および
会報の号を明記し、資源管理談話会事務局を通じて要請し、
著者の許可を得て翻訳・公表する。
2. 翻訳公表物を資源管理談話会事務局に送付する。

目 次

お知らせ

REPORT OF THE 57TH MEETING OF THE
INTERNATIONAL WHALING COMMISSION'S
SCIENTIFIC COMMITTEE

Luis A. Pastene . . . 1

第58回IWC科学委員会報告

後藤睦夫 . . . 5

スケトウダラ資源調査への音響資源調査の導入

本田 聡 . . . 9

スケトウダラ太平洋系群および
日本海北部系群の資源変動について

船本鉄一郎 . . . 25

第58回IWC科学委員会報告

後藤 睦夫
(財)日本鯨類研究所

2006年の5月下旬から6月上旬にかけて、カリブ諸島のセントキッツネービスにおいて科学委員会 (Scientific Committee: SC) が行われたが、議論の内容等について概要を述べる。

1. 会議の概要

開催場所：セントキッツネービス バセテール市 マリオットホテル

会期：2006年5月24日から6月6日(14日間)

5月24日、25日：人間由来の騒音に関する作業部会
先住民生存捕鯨管理方式作業部会
改定管理方式作業部会

5月25日：科学委員会本会議開始

5月27日～6月3日：各種分科会・作業部会

5月4～6日：本会議

SC会議議長：ビヨルゲ (ノルウェー)

SC参加者：参加者：198名

各国代表団：加盟31国から 143名(その内 日本26名)

招待科学者：44名

国際機関：7名

IWC事務局：4名

通訳：4名(その内 日本3名)

提出文書数：251編 (その内 日本側からの提出文書数：27編)

2. 分科会、作業部会における議論の内容

本文末の表に示したとおり、本年度は15種類に及ぶ分科会あるいは作業部会が設立され、各分科会・作業部会の総セッション数は90に及び、昨年よりさらに6セッションが増加し、会期中に休日を取ることができない分科会も生じた。本年度は新設されたNPM (北太平洋ミンククジラ) 議長に任命され、科学委員会の内閣に当たるコンビナー構成員15名の中で、日本代表団員が3名を占めるに至った。以下に日本に関連が深い各分科会・作業部会の議論の内容を紹介する。

(1) 改訂管理方式 (RMP)

1) 北西太平洋ニタリクジラ RMP *Implementations*

・ 北西太平洋ニタリクジラクジラRMP IST(シミュレーションによるRMP適用試

験)の最終化と各トライアルの重み付けを行った。

- ・ 28種類のトライアルが合意(系群仮説の1-3、およびMSYR=4%をHigh weightとした)。
- ・ 第2回閉会期間中作業部会が2006年12月東京で開催される予定。

2) 北大西洋ナガスクジラ

- ・ *Implementation*前の資源評価が終了し、2007年に*Implementation*プロセスが開始される予定。

3) ホッキョククジラ B-C-B 系群の *Implementation Review*

- ・ 2007年に行われる *Implementation Review* のための準備作業が行われた。
- ・ 閉会期間中作業部会で9つの系群仮説で合意されたが、58SC期間中に新たな情報は得られなかった。
- ・ 2006年の9月1日までに、新たな遺伝データが利用可能になり、日本、ノルウェー、USAの研究者が、9つの系群仮説の“尤もらしさ”の検討を行い、2007年1月に開催予定の第2回閉会期間中作業部会で議論される予定。

4) クロミンククジラ資源量推定

- ・ IDCR/SOWERによる3回の周極調査に基づく資源量推定値が提出された。
(CPI:645,000、CPII:786,000、CPIII:338,000)
- ・ CPIIからCPIIIへの資源量推定値の大幅な減少に関して、当方は以下のとおり反論を行った。
 - a)CPIIからCPIIIへの $g(0)$ の減少は、これらの調査間の平均群れサイズの減少に起因する。
 - b)氷の伸張による資源量の過小評価(パックアイス内のクロミンククジラの数に資源量に反映されていない)。
- ・ これらの2つの要素の定量化を次回会合でおこなうことが合意された。
- ・ 以上のことから、資源量の減少について本委員会に報告することは時期尚早であることが合意された。

(2) 北西太平洋ミンククジラのJ-系群への詳細評価

- ・ 本年度より北門をコンピナーとして新たに設置された。
- ・ 日本と韓国の混獲標本を用いた系群構造の解析や、 $g(0)$ を含む資源量に関するドキュメントが議論された。
- ・ 来年度も引き続き、同様の議論が行われる予定。
- ・ 昨年の本委員会で、韓国が中心になって採択された決議に基づき、レンジステートによる資源量調査のための作業部会の開催に関して、韓国研究者より協力要請がなされた。

(3) 南半球産ザトウクジラ

- ・ SCは系群A(ブラジル-AreaII)、G(コロンビア-AreaI)、D(西豪-AreaIV)の包括的評価を行うことで合意した。
- ・ これらの系群のうち、系群Gでは、この系群内に複数の系群が存在するかどうか

- か不確かさが残る。
 - ・ 系群Dでは繁殖域での資源量の情報はあつものの、摂餌域での系群Eとの混合に関する情報が不十分である。
 - ・ 系群Dでは資源量が確実の増加傾向にあることで合意
- (4) 南半球産シロナガスクジラ
- ・ 南半球産シロナガスクジラの包括的評価が開始された。
- (5) 調査計画のレビュー方法
- ・ 新調査計画が提出された際のレビュー方法について集中して議論が行われた。現議長、前議長、科学主任が共同で案を提示したが、反捕鯨科学者から反対意見が出され、来年に持ち越しとなった。
- (6) JARPNII、JARPA IIの航海報告
- ・ 若干の議論が行われたのみで、特に大きな問題はなかった
- (7) JARPA レビュー会合
- ・ 2006年12月に東京(日本鯨類研究所の会議室)でバニスター議長の下に開催されることが決定した。
3. 第58回科学委員会の特徴
- 1) 今科学委員会は対立間が比較的少ない会合となった。この理由として、新規の捕獲調査の提案が行われなかったこと、また強硬な反捕鯨科学者の欠席等によることも理由の一部と考えられる。
 - 2) クロミンククジラの資源量については来年に持ち越しになったが、当方による解析結果に負うところが大きかった。
4. 次回(2007年第59回科学委員会)会合予定
- (1) 会議の概要
- 開催場所: アンカレッジ、アラスカ、USA
会期: 5月7日～5月18日(12日間)
(年次会合: 5月28日～5月31日)
- (2) 予想される争点
- ・ クロミンククジラの資源量
 - ・ JARPAレビュー会合報告
 - ・ JARPAII本調査計画
 - ・ JARPNII調査計画の見直し
 - ・ B-C-Bホッキョククジラの *Implementation Review*

各分科会の種類・議長・セッション

1 セッション=1.5時間、過去内は今年のセッション数

Sub-committee	Chair (country)	Sessions
Revised Management Procedure (RMP)	Bannister (IP)	13 (6)
Aboriginal Subsistence Whaling		
Management Procedure (AWMP)	Donovan (IWC)	7.5 (5)
Bowhead, Right and Gray Whales (BRG)	Walløe (Norway)	5 (7)
In-depth Assessment (IA)	Palka (USA)	13.5 (17)
North Pacific minke (NPM)	Kitakado (Japan)	4 (0)
Southern Hemisphere Whale Stocks (SH)	Zerbini (IP)	10 (8)
Stock Definition (SD)	Bravington (IP)	2 (4)
Estimation of Bycatch (BC)	Berggren (Sweden)	6 (6)
Environmental Concerns (E)	Rojas (Mexico)	7 (9)
Small Cetacean (SM)	Rogan (Ireland)	7 (8)
Whale Watching (WW)	Kato (Japan)	6 (4)
DNA Testing (DNA)	Pastene (Japan)	2 (2)
Scientific Permit (SP)	Bjørge (Norway)	2.5 (5)
Ecosystem (EE)	DeMaster (USA)	2.5 (0)
SOWER (SOWER)	Best (South Africa)	3 (3)
Total Sessions		90 (84)